

(様式2)

公共事業事前評価調書

事業概要	事業名	新港ふ頭9号岸壁改修事業(仮称)
	場所 (所在地)	横浜市中区新港2丁目5番1号
	事業目的	① 新港ふ頭の9号岸壁を耐震強化することで、防災機能の向上を図ります。 ② 通常時には大さん橋とともに客船を受け入れ、クルーズ機能の強化を図ります。
	事業内容	新港ふ頭9号岸壁の整備(耐震強化) 延長:340m 水深:9.0m(現況:延長220m 水深7.5m)
	事業 スケジュール	平成26年度～29年度を予定
	総事業費	約40億円 ※今後の精査により変更になる可能性があります。
	<p>＜新港ふ頭整備イメージ図＞</p>	

<p>事業の 必要性</p>	<p>① 震災時は、緊急物資や復旧資材等の海上輸送が重要な役割を担うことから、耐震強化岸壁整備が求められています。</p> <p>現在、緊急物資等輸送用の耐震強化岸壁は、計画11バースのうち4バースしか整備済みとなっていないことから、背後の各被災地へ効率よく緊急物資や復旧資材等の運搬が可能となるよう、物資輸送能力を強化する耐震強化岸壁の整備が必要です。</p> <p>② 横浜港に寄港する客船は基本的に大さん橋ふ頭を利用していますが、客船の大型化や寄港数の増加に伴い、配船の調整が難航する状況が生じています。</p> <p>そこで、大さん橋とともに客船を受け入れるバースを早急に整備する必要があります。</p>
<p>事業の効果</p>	<p>① 震災時に、海上からの緊急物資を受け入れることが可能となり、緊急物資を速やかに供給することが出来ます。</p> <p>② 新港ふ頭9号岸壁を改修し、客船の受入機能を強化することにより、今後の増加が見込まれる客船の対応が図れるとともに、さらに客船誘致を促進することができます。</p>
<p>環境への配慮</p>	<p>本岸壁の整備に当たっては、必要な環境面への配慮を行ってまいります。</p>
<p>地域の状況等</p>	<p>新港地区は、赤レンガ倉庫をはじめとした歴史的資産が数多く残されており、これらの資産や島という地形的特徴・港の景観などを活かした街づくりを進めています。</p> <p>現在、街区開発が進み、観光客や施設利用者が増加しています。</p>
<p>事業手法</p>	<p>公共発注方式</p>
<p>添付資料</p>	<p>無</p>
<p>担当部署</p>	<p>港湾局建設保全部建設課 (Tel.671-2879)</p>